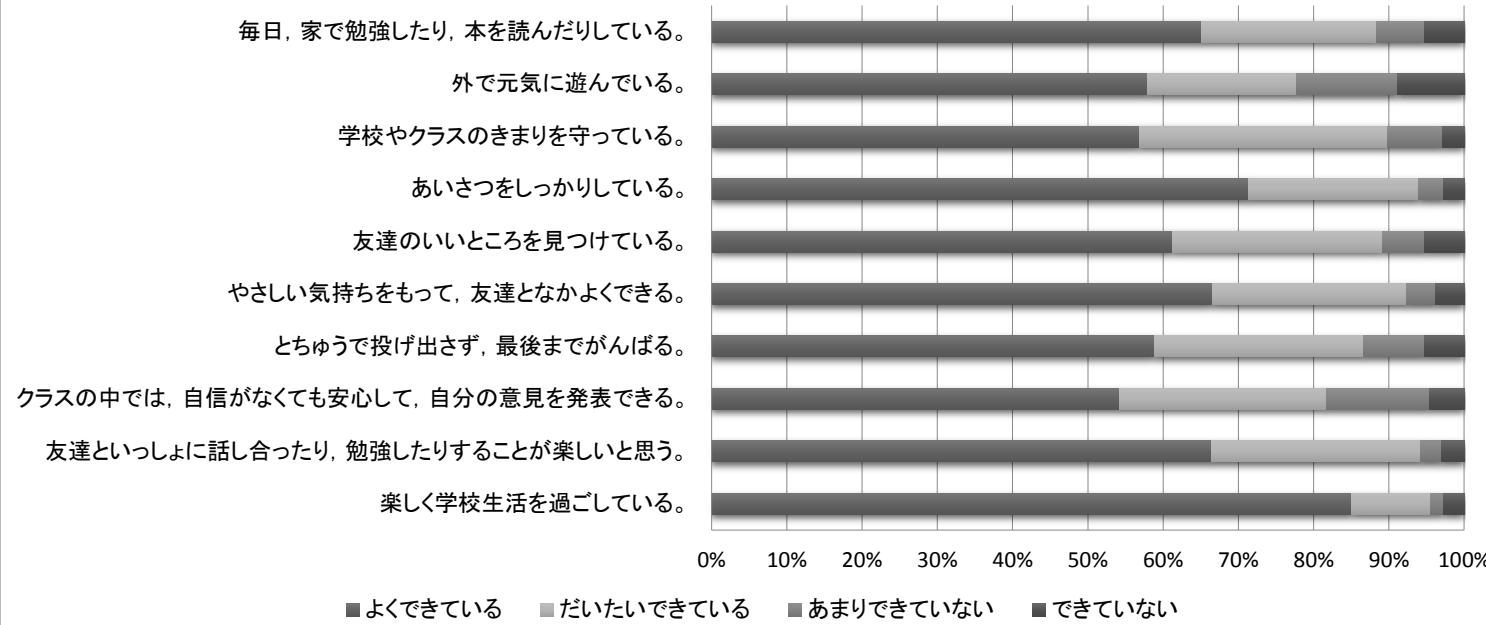
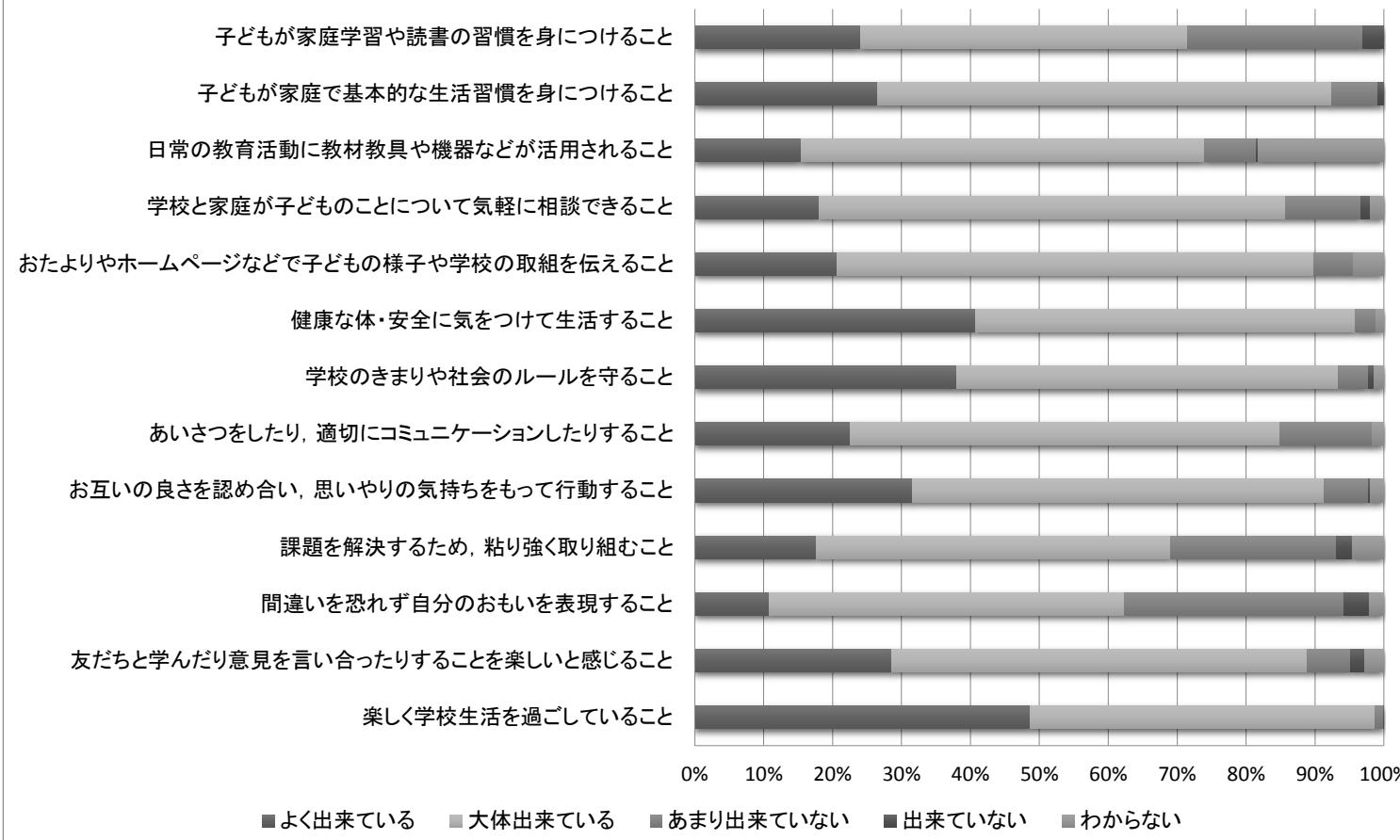


平成26年度 後期学校評価アンケート(児童)



前期に比べてよくできているという回答が多かった項目は、「あいさつをしっかりしている」「友達のいいところを見つけている」「クラスの中では自信がなくても安心して、自分の意見を発表できる」「毎日、家で勉強したり、本を読んだりしている」です。運動会や学習発表会などの学校行事、宿泊学習や日々の学習活動を通してクラスの友達と仲良くなり、協力して活動することの楽しさや達成感を味わうことにより、友達のよいところに目が向けられ、安心して話ができるようになったためだと思われます。また、挨拶については、児童会から提案された「あいさツリー」の活動が自分自身の挨拶の仕方を見直す機会となりました。集団登校でのみまもり隊の方々の日々のお声かけや励ましも児童が挨拶を意識し習慣付けをしていくための大きな支援となっています。「継続は力なり」の通り、みんなで続けることの大切さを改めて感じました。しかし、外で元気に遊べている子は、前期よりも少なくなっています。これは、インフルエンザなどで体調を崩す子がいたことや寒さで外出することがおっくうになってしまったからでしょう。粘り強く頑張ることやきまりを守ることについては、児童自身がもう少し頑張らなくてはならないと思っている項目であり、教職員が共通認識し励ましや支援を続けていくことが大切だと思います。

平成26年度 後期学校評価アンケート(保護者)



保護者の皆様には、お忙しいところアンケートにご協力いただきありがとうございました。前期のアンケート結果と同様に子どもたちは、毎日楽しく学校生活を送ることが出来ているようです。保護者の皆様のアンケート結果を見ますと、前期に比べて「友だちと学んだり意見を言い合ったりすることが楽しいと感じること」という項目の評価の「よく出来ている」が増え、「あまり出来ていない」が少し減りました。しかし、少数ではありますが「出来ていない」という評価もあり、来年度は、自分のおもいを伝えることが難しい子により多くの支援と配慮をしながら楽しい授業を作っていくことを心がけたいです。また、家庭学習や読書の習慣についても、「よく出来ている」が増え、全体的には、日々の積み重ねの学習や自学自習の姿勢が身に付いてきたと言えます。一方、まだ「あまり出来ていない」という回答も7%ほどあり、学校と家庭の両面からの支援の必要性を感じます。研究教科として取り組んでいる生活科や総合的な学習の時間はじめ、日本語検定や漢字検定など子どもたちが自分自身でめあてを持って学習に取り組んでいけるような機会を増やしていくことにより、おもいを伝えたり自ら進んで学習する姿勢が培われると思います。